

第 52 回群馬県高等学校将棋選手権大会

実 施 要 項

- 1 主 催 群馬県高等学校文化連盟将棋専門部
- 2 日 時 令和 7 年 5 月 1 1 日 (日) 受付：午前 9 時 00 分 開会式：午前 9 時 20 分
- 3 会 場 群馬県立高崎工業高等学校 管理棟 3 階 大会議室他
高崎市江木町 7 0 0 番地 TEL (027) 323-5450
- 4 出場資格 群馬県高等学校文化連盟に加盟している高等学校、中等教育学校後期課程の第 3 年次までの生徒。
- 5 競技種目 男女別の団体戦、個人戦を行う。
- 6 登録人数 ①団体戦 男女とも 1 校 2 チーム (1 チーム 3 名) 以内
②個人戦 男子 4 名、女子 4 名以内
*男子は団体戦と個人戦の選手を兼ねることはできない。
*女子は団体戦と個人戦の選手を兼ねることができる。
ただし、団体戦で優勝したチームの選手は個人戦出場資格を失う。
*団体戦について、同一敷地内に同一学校名で全日制・定時制・通信制の課程がある場合、一緒に活動していれば課程が異なった生徒同士の出場を認める。(引率については各校で学校長が承認の上、参加申し込みをして下さい。)
*団体戦について、広域通信制の学校の生徒は 3 名とも群馬県内でスクーリングを受けていて、更に群馬県高文連に加盟しているとき出場を認める。ただし、一緒に活動していることとする。
- 7 競技方法 ①トーナメント方式による総平手戦で、先後は振り駒で決める。
②持ち時間は次の通り
準決勝・決勝 持ち時間 20 分、使いきって 30 秒の秒読み
他の対局 持ち時間 25 分、過ぎると切れ負け
ただし、参加人数が多数の場合、持ち時間を短縮することもある。
③対局規定は全国高等学校将棋選手権大会に準ずる。
*女子は団体戦、個人戦の順に実施する。
*抽選・組合せは理事会で行う。
- 8 表 彰 男女団体戦、男女個人戦ともベスト 4 を表彰する。
- 9 県 代 表 次の学校のチーム、選手には全国高等学校総合文化祭将棋部門
(香川大会 7/29 (火)・7/30 (水)) の出場権が与えられる。
男子団体戦の優勝チーム 男子個人戦の上位 2 名。
女子団体戦の優勝チーム 女子個人戦の上位 2 名。
*全国大会参加負担金について、個人戦は出場生徒 1 人について 1,000 円、
団体戦は 1 チーム 3,000 円とします。本大会当日に該当校から徴収しますので、
準備をお願いします。(領収書をお出しします。)
- 10 申 込 み 下記アドレスに配布された『選手権大会申込書』をメールにて申し込んでください。
E-mail : takashi-sato@edu-g.gsn.ed.jp
群馬県立高崎工業高等学校 佐藤 貴史 (4 月 25 日必着)
*メール送信の際に引率の先生の連絡用のメールアドレスを記載してください。
(県立学校の先生は～@edu-g.gsn.ed.jp のアドレスで結構です。)
*申込受付後、上記メールアドレスに確認のメールを送信します。
*5/8(木)前後に、大会に関する連絡を記載していただいたメールアドレスに連絡します。
*別紙参加承諾書については大会当日に事務局が用意する参加者一覧表にサインをいただきますので、参加申込時に提出の必要はありません。
- 11 注意事項
※「上履き」と「下履きを入れる袋」を持参してください。
下駄箱がありませんので、下履きは袋にいれた状態で会場までお持ちください。
※昼食は定められた場所でとり、密集・対面・会話をしないでください。(ごみは持ち帰ってください。)
※大会参加者は以下のことについてご了承ください。
(大会当日に受付で別紙参加承諾書付属の参加者一覧表に直筆でサインをしていただきます。)
・大会の記録及び群馬県高等学校文化連盟の広報のため、大会開催中に大会事務局で写真を撮影します。
・大会結果を掲載したトーナメント表が、大会終了後に群馬県高等学校文化連盟 HP 内の将棋専門部のページに掲載されます。
・準決勝以上の対局を中心に日本将棋連盟群馬県支部で棋譜をとり、後日、棋譜と解説記事が上毛新聞に掲載される予定です。

◎ 附 記

* 対局規定（一部）

- ・団体戦は主将が振り、交互に先後となる。
- ・対局時計の位置は後手番が決めることができる。時計は指した方の手で押す。
- ・禁じ手（二歩、打ち歩詰め、成れない駒の成りなど）、二手連続の着手、待った（駒から手を離したら、変更できない）は相手の勝ちとなる。
該当者は時計を止め、速やかに申し出ること。対局終了後は一切の異議を認めない。
- ・同一局面が4回発生した場合千日手となる。時計を止め速やかに申し出ること。その後、先後入れ替えて残り時間で指し直す。ただし、連続王手の千日手は王手をかけている方の負けとなる。
- ・切れ負けの対局における入玉将棋については、「入玉将棋の宣言法」を採用する。
秒読みつきの対局において双方入玉模様となった場合、審判長の判断で対局を中止し判定とする。
判定は 27 点法（大駒 5 点、小駒 1 点）で、ポイントの高い方を勝ちとする。ただし、同点の場合は後手の勝ちとする。
尚、「入玉将棋の宣言法」も併用する。
- ・対局マナーに注意すること。対局中の飲食、応援の者との会話、対局内容に関する話などは慎む。

* 入玉将棋の宣言法

宣言しようとする側は、自分の手番で手を指さずに「宣言します」といい、時計を止めて対局を停止させる。そのときの局面が、次の条件をすべて満たしていれば宣言した側の勝ち、1 つでも満たしていなければ宣言した側の負けとなる。したがって、宣言をもって対局は終了する。

- 〈条件 1〉 宣言側の玉が、敵陣三段目以内に入っている。
- 〈条件 2〉 大駒 5 点、小駒 1 点の計算で、宣言側が先手の場合 28 点以上、後手の場合 27 点以上の持ち点がある。
ただし、点数の対象となるのは、持ち駒と、敵陣三段目以内に存在する玉以外の駒のみである。
- 〈条件 3〉 宣言側の敵陣三段目以内の駒が、玉を除いて 10 枚以上存在する。
- 〈条件 4〉 宣言側の玉に王手がかかっていない。
- 〈条件 5〉 宣言側の持ち時間が残っている。